

『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻  
動物臨床看護学総論/動物臨床看護学各論』（第2版第2刷）  
訂正とお詫び

掲載記事中、以下の記事に誤りがございました。ここに訂正させていただくとともに読者の皆様及び関係者の方々に深くお詫び申し上げます。

株式会社 EDUWARD Press

2026年3月9日作成

頁	記事タイトル	該当箇所	誤	正
p.198	動物臨床看護学総論 第1章演習問題	問4 選択肢③	虚脱や失神を伴う呼吸困難は徐脈性不整脈だけが原因となっていることが多い。	虚脱や失神を伴う呼吸困難は徐脈性あるいは頻脈性不整脈が原因となっていることが多い。
p.202	動物臨床看護学総論 第1章演習問題解説	問4 解説正答	虚脱や失神を伴う呼吸困難は徐脈性不整脈だけが原因となっていることが多い。	虚脱や失神を伴う呼吸困難は徐脈性あるいは頻脈性不整脈が原因となっていることが多い。
p.218	動物臨床看護学各論 第1章	中見出し 「短頭種気道症候群」 1行目	短頭種気道症候群とは、短頭種の犬にみられる上部気道の解剖学的あるいは機能的異常に伴い、さまざまな上部気道障害を引き起こす症候群であり、犬にのみ発生する。	短頭種気道症候群とは、短頭種の犬および猫にみられる上部気道の解剖学的あるいは機能的異常に伴い、さまざまな上部気道障害を引き起こす症候群である。
p.391	動物臨床看護学各論 第2章7	「眼の観察」 左上から4行目	莢膜	強膜
p.396	動物臨床看護学各論 第2章7	「白内障」 左下から6行目	過熟期	過熟期
p.422	動物臨床看護学各論 第2章8	左段上から6行目	大型犬においては膝蓋骨が外側に脱臼する膝蓋骨外方脱臼のほうがよく認められる。	外方脱臼は大型犬でよく認められるとされているが、「大型犬だから外方脱臼」と限定するものではなく、臨床的にも内方脱臼が多い印象である。

p.427	動物臨床看護学各論 第2章8	左段下から1行目	犬においてはグレードI～IIIのOCDは臨床症状を現さないため診断されることはまれである。	犬においてはグレードI～IIのOCDは臨床症状を現さないため診断されることはまれである。
p.509	動物臨床看護学各論 第2章11	「心肺蘇生法ガイドライン」左下から5行目	(図2-12-6)	削除
p.520	動物臨床看護学各論 第2章11	「ショック」の図番号と該当文章  左段上から5行目	図2-12-7 ショックの病態  (図2-12-7)	図2-12-6 ショックの病態  (図2-12-6)